



やけどをしてしまったら



やけどは夏と冬に多くなります。夏は花火やバーベキュー、日光で熱くなった金具などでのやけどが多く、冬は湯たんぽや暖房器具による低温やけどが多くなります。やけどやケガの治療は昔と大きく変わっています。消毒して軟膏やガーゼを当てる治療は「痛くて処置が大変で治りが悪い前世紀の遺物」です。最新の「痛くなく、簡単に、早く、きれいに治る」治療をご紹介します。



最初のこと:水で冷やしましょう

水道の水を流しながら1~2分冷やしましょう。それ以上冷やしても意味はありません。氷など冷たすぎるもので長く冷やすと感覚が麻痺して痛みが軽くなったように感じますが、冷やしすぎてかえって低温による障害を起こしてしまいがちです。

赤くなってひりひりするとき

水ぶくれが出来ず、皮膚が赤くなってヒリヒリするだけの場合は1度熱傷と言って一番軽いやけどです。やけどの部位が空気に触れているとヒリヒリしますが、何かで覆うと軽くなります。一般的な絆創膏は空気を通すので、キズパワーパッドなどのぴったり貼り付いて水も空気も通さないものを貼るのがおすすめです。とりあえずワセリンを塗ったラップなどを当てても痛みは和らぎます。

水ぶくれが出来たとき

水ぶくれが出来たら2度熱傷以上のやけどになります。お湯より温度の高い油や火によるやけどは深くなりやすいです。やけどが小さく水ぶくれが破れなければそのまま治るまで保護する方法もありますが、ほとんどの場合治りきる前に破れてしまいます。そうすると水ぶくれの皮の部分を取り除き、やけどの面を覆ってあげる必要があります。処置が必要ですので受診してください。すぐに受診できない時はガーゼではなくラップを当てて、液が出てきたらやけどの周りを濡れティッシュなどで拭いてラップを当てなおしてください。消毒は有害無用です。ガーゼやワセリン以外の軟膏・薬を当てると痛みを起し傷を深くするだけで、使用するべきではありません。最新の創傷被覆材を当てれば張り付かず処置も簡単に痛くありません。ぜひご相談ください。

クリニックからのお知らせ

- ・肺炎球菌ワクチンのお知らせが届いている方は、当院で接種できますのでご相談ください。今年度を逃すと補助が受けられませんのでご注意ください。
- ・福岡市認知症相談医に登録されました。ご家族のことで不安なことなどありましたらお気軽にご相談ください。
- ・平成28年度のおよかドックを受付中です。国民健康保険で昨年度受けておられない方は今年度はぜひ受けられてください。

スタッフからひとこと

今年の夏は異常な暑さでクリニック前の花壇の花も枯れてしまいそうです。暑さに強いはずのアフリカ原産の日々草も弱っており日本の夏恐るべしです。残暑も厳しいという予想ですので、まだまだ熱中症には注意してください。また、暑さで体力が低下していますので、旬の夏野菜とタンパク質でしっかり栄養を取りましょう。



院長



つかもと内科

TEL:092-832-5901

<http://tsukamotoclinic.com/>

ホームページもぜひご覧ください！

